

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府乙訓郡大山崎町字下植野小字南牧方32								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	乙訓環境衛生組合 管理者 真鍋 宗平								
事業者の主たる業種	一般廃棄物処理業								
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	これまでの取り組みによる成果を継続し、定期に評価・検討を行うことにより、温室効果ガスの削減及び「乙訓環境衛生組合地球温暖化防止実行計画」の推進を図り、京都府地球温暖化対策条例に基づく削減目標の達成を目指す。（＜21＞実行計画の進捗状況及び広報紙等を活用した啓発活動の周知徹底）								
推進体制	「乙訓環境衛生組合地球温暖化防止実行計画」に基づき構成されている「乙訓環境衛生組合地球温暖化防止推進委員会」により、本組合と実行計画を併せて推進する（＜21＞従来の取組内容を維持）								
環境マネジメントシステム名称									
	適用範囲								
	取得年月日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	20～22	事務部門	公共交通機関の活用による公用車走行距離及び燃料使用量や節電による電力使用量等の削減に引き続き取組み、事務部門から排出する温室効果ガスを基準年度（平成19年度）実績以下とする。（＜21＞基準年度と同量）						
		廃棄物部門							
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	t	t	%	t	%			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	26,713.0 t	23,166.0 t	-13.3 %	25,599.5 t	-4.2 %			
	排出合計	*1 26,713.0 t	*2 23,166.0 t	-13.3 %	*4 25,599.5 t	-4.2 %			
実績に対する自己評価	乙訓環境衛生組合地球温暖化防止実行計画に基づき、事務部門及び廃棄物処理部門に分類し、事務部門では60.0t-CO <sub>2</sub> 、廃棄物処理部門では23,106t-CO <sub>2</sub> をそれぞれ削減目標として設定しているが、平成21年度実績では、事務部門が60.0t-CO <sub>2</sub> 、廃棄物処理部門が25,539.5t-CO <sub>2</sub> 、合計25,599.5t-CO <sub>2</sub> となり、事務部門では削減目標と同量であったが、廃棄物部門において削減目標を超過したため、組合全体においても削減目標を超過している状況となった。焼却対象ごみに含まれる廃プラスチック混入量の増加が大きく影響しており、目標年度を迎える次年度に向け、実行計画達成に向けた広報啓発に努め、目標値達成を目指す。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価									
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
		削減量等合計	*3 t		*5 t				
	差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
	*1 26,713.0 t	(*)2-(*)3 23,166.0 t	-13.3 %	(*)4-(*)5 25,599.5 t	-4.2 %				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動									
特記事項									

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。